

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居の皆さんの尊厳を守る。その人らしく過ごせるよう一人ひとりに合わせて援助する。というこれまでの理念に加えて、地域との関係性を考慮した理念につくりかえた。	○	今後も求められることや現状に合わせて検討していきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居の皆さんと関わりについての話し合いは、何を大切にするのかという理念の確認にもとづいて行っている。また、ケアの実践において、理念の中の今年度の重点課題を決めている。	○	新しく加えた、地域との関係性についての理念の具体化についてはこれから取り組んでいきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレットに、理念を印刷したリーフレットを挟み入れることにした。訪問者が見やすい玄関と、職員やご家族の目につきやすいリビングの壁面に、理念を掲示している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	道で会った人には必ず挨拶するよう心がけているが、散歩の途中で声をかけてもらうことがよくある。畑で採れた野菜をもってきてくださることもある。散歩をかねて、町内のごみ拾いをしており、感謝されている。	○	ごみ拾いは続けていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、秋祭りなどの季節の行事や、草刈りなどの地域活動に参加している。	○	さらに参加できることはないか伺ってきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症サポーター養成講座を開催した。その後も、勉強会を続けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度のアドバイスに基づいて、パンフレット、個別記録、夜間記録の様式、塗薬の保管、感染症対応マニュアル整備などできることから改善している。	○	申し送りの持ち方、所内研修の計画については、検討中。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の運営の課題に関してのアドバイスや意見を聞かせてもらう場になっているが、入居者の実態やケアの実情については、まだあまり言及していない。	○	今回の評価の結果報告から現場の実情をつたえる機会としていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	わからないことの問い合わせや、事故の報告など、電話や書面でのやり取りはあるが、運営やサービス現場の課題の相談をするにはいたっていない。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	以前、必要があり、支援したことがあるが、現在は、パンフレットや書籍は備えているが、積極的に学ぶ機会を持つにはいたっていない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアする側もストレスを感じやすい精神労働であるので、チームの中で解消できるよう、防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会に利用者代表として出席して意見を出してもらっている。思いや意見を上手に表すことが出来ない方についても、態度や表情から思いを察するようこころがけている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	体調不良の報告や相談などはその都度電話で行っているが、定期的にも、ホーム全体の様子や個々の暮らしぶりを写真や手紙を載せたホーム便りを発行して、毎月伝えている。金銭管理は、ご家族やご本人の希望に合わせた個々の方法を相談しながら管理し、ご家族の来訪時に報告を行っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会では職員が席を外す時間を設けたり、便りの中でも意見や要望を出していただけるよう繰り返しお願いしている。何でも言ってもらえるよう、施設側からもありのままを伝えるようこころがけている。	○ 市町村の相談窓口など、外部にも、苦情や意見を表せる機会があることを、契約の際の説明や掲示はしているが、繰り返し伝えることはしていなかった。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろからコミュニケーションを図り、不満や苦情も言いやすい雰囲気をつくるようこころがけている。	○ 大切なことは全体のミーティングの際に話し合いで決めるようにしているが、議題自体も職員から提案されていくよう、繰り返し伝えていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状況に合わせて勤務の時間帯を調整してきている。夜勤者は、日中からその日の入居者の状態を把握できるように勤務時間帯を考慮している。	○ たとえば急な職員の休みや夜間のできごとに対応できるように管理者を通常シフトに組み入れないというほどの余裕のある体制はとれていない。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	辛い異動や離職は少ないが、新しい職員については、便りで紹介するとともに、ご家族の来訪時にも、直接挨拶するようにしている。情報を整備し、担当者や職員の異動があった場合にも潤滑に引継ぎが行われるよう努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が段階的に研修を受けられるよう計画を立て、研修報告は全体ミーティングで発表し、報告書は全職員が閲覧できるようにしている。また、さまざまな機関から紹介される講習についても、随時紹介し、学びの機会を提供している。	○	認知症についての勉強会を隔月で開催しはじめた。さらに事業所内での勉強会を計画していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	参加者を当事業所に限定しない 認知症についての勉強会を隔月で開催し始めた。	○	他グループホームとの相互訪問の機会を検討している。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	入居者と離れて一息つけるよう交代で休憩をとっている。休憩室は、入居者と互いに見えない場所にしてある。職員同士の人間関係に悩んでいないか把握するように努めている。疲労がたまらないようなローテーションになるよう努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	就業規則が守られるよう配慮し、健康診断を実施している。資格取得に向けて、支援している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている			
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まずご家族の話をよく聞くことをこころがけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームを利用することが最善なのか、そのせの体制で対応できるのか考えることにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族が見学に来られることから始まることが多いが、入居の前にはできるだけご本人にも見ていただくようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	今年度のケアの目標を、「言葉にならない気持ちに寄り添う」としており、理解や共感に努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	暮らしの様子をきめ細かく伝え、何でも報告・相談することで、ともに支える協力関係を築きたいと考えてきたが、最近ホームのほうに比重がかかりがちである。	○	特に精神的な支えは、ご家族にまसारものはないと思っている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	長年の思いだけでなく、認知症を発症してからすれちがってしまった思いも受け止めるようこころがけている。	○	よりよい家族関係の継続の一助にと行事を企画したが、あまり参加していただけなかった。次回は内容を変えてみたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の来訪を歓迎し、電話や手紙での連絡をとりもったりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	トラブルが起きそうになっても、誰かがなだめ役になってなんとなくおさまることもあるので、職員がすぐに間に入らず、少し見守るようにしている。また、楽しい時間を共有する援助はもちろんだが、気の合わない人との関係も、自然な人間関係と考える、個別に話を聞いて発散してもらうなどしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	特に希望や思いを言葉にできない・しない入居者については、ご家族からの話や、職員の観察や情報を共有し、話し合うようにしている。	○	今年度のケアの目標を、「言葉にならない気持ちに寄り添う」として、希望や思いの把握に努めたいと思っている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には、シートに記入していただいているが、その後も、バックグラウンドに合わせたケアをしたことにより、ご本人が生き生きされたことなどを伝えたりして、情報の大切さを理解していただくように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個別の生活の記録には、気づきや発見、エピソードも記入するようにしており、また、ケア担当による全体像のアセスメントも行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者のアセスメントをもとに、職員全員でカンファレンスを行い、意見の交換を反映して介護計画を作成している。	○	ご家族の意見をもっと反映させたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しのほか、状況の変化に応じて、期間終了以前であっても、見直しと新たな作成を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活の記録には、体調の変化、ケアの工夫や結果なども記入するようにしている。また、ケア勤務にはいる前には、記録を確認する時間をもうけ、情報の共有を徹底している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人やご家族の状況に応じて、通院などの支援にも対応している。	○	医療連携体制の活用を検討している。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	園芸や、阿波踊り体操、フラダンス、歌や楽器の演奏などのボランティアさんの来訪が頻繁にある。消防に来てもらっての避難・消火訓練も行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の場合、往診が受けられる。以前からのかかりつけ医の場合は、家族同行の受診を原則としているが、必要があれば、職員も同行したり、訪問診療に来てもらうこともある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している			
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護資格を有する職員を配置している。	○	健康管理や状態変化に応じた支援、24時間対応などの体制について、検討している。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際には、頻繁に職員が見舞い、ご家族とも情報交換しながら、医療機関には受け入れる事業所の情報を提供して、回復状況に合わせ、退院計画を具体的に立案した。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態が変化するたびに、ご家族やご本人の思いに注意を払い、なるべくさりげなく対応について話題にするようにしている。	○	重度化した場合や終末期になった場合でもできるだけ対応していきたいと思っているが、具体的に、何が求められ、どこまで応じられるかは、繰り返し話し合っていく必要があると考えている。その時のためにも、意識して、ご家族やかかりつけ医と何でも話し合える関係作りをつくっていききたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	協力医がターミナルケアにも対応してくれる在宅医療診療所であり、今後の変化への連携の準備を行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている			



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を守ることをいちばん大切に考えており、言葉かけの内容や語調に配慮がされているか、リーダーが点検し、確認している。	○ 職員間での申し送りや打ち合わせが、入居者の皆さんがくつろいでいるのと同じ空間であるリビングでおこなわれる際、プライバシーを損ねていないか、気になることがある。また、便りや運営推進会議などでホームの実情を知らせたいと思う反面、プライバシーの保護とのかねあいが難しいと感じている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	着るもの、髪型、好きな歌、TV番組、嫌いな飲み物など、それぞれの方の関心、嗜好を知るように努め、それをもとに、日常の中で本人が選びやすい場面づくりをこころがけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の気持ちを尊重して、昼寝や散歩、就寝時間など、入居者のペースに柔軟に対応するようにしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	出張美容室に来てもらい、好みに合わせて、髪型や、パーマ、毛染めなどのおしゃれを楽しんでもらっているが、街の美容院が好きな方には、同行している。また、これまでの習慣の通りに、洗髪後にカーラーを巻いたり、整髪料や化粧水を使用できるよう支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方が畑で野菜をつかっており、生育が皆の楽しみになっている。野菜の皮むきやすじ取り、盛り付けやテーブル拭きなどは、日によってそれとなく分担している。お盆を持って配膳ができない方も、個人の茶碗やはしたの柄を覚えていて、手を伸ばして配るという役割をされ、力を発揮している。片付けも、力に応じて、茶碗洗い、茶碗を重ねておく、などされている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	特に甘いものが好きな方には手軽にちよつとつまめるものを用意しておき、要望があった時には、自室で楽しんでいただくようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意がないかたにも時間を見計らってトイレに誘導、尿意があっても言えない場合はサインを把握して誘導、トイレ内でどこに迷いがあって失敗するのかを把握して援助するなど、一人ひとりに合わせた支援をしている。下着に尿取りパッドか尿漏れ用パンツをなるべく使用し、不快感が少ないようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一番風呂と決めている方、風呂好きで日に何度も入ろうとされる方などの希望に沿うようにする一方、入浴を嫌がる方には、職員も一緒に入り、安心感を持ってもらえるよう支援している。毎回湯を入れ替えて、清潔で、好みの湯かげんにし、見守りにつく職員と1対1でゆっくり会話ができるひとときと意識し、入浴を楽しんでもらえるよう配慮している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の個別の疲れ具合に合わせて、個別に休息を取れるよう支援している。寝付けないうときは、温かい飲み物を飲みながらおしゃべりに付き合うようにしている。昼夜逆転傾向にある場合は、日中の活動を促したりして、生活リズムを整えるよう努めている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割や楽しみが、職員主導で終わらないよう、自発的にされたことや、思いがけなくできていたことへの気づきを記録し、情報を共有して大事にしている。	○	潜在している記憶や力が、ふと出てくるような場面づくりをさらにここがけたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物をして支払いをされている方、財布の中を見て満足される方、事務所が預かることで安心される方など、一人ひとりの希望や能力に応じた支援をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご自分から散歩や外出を希望される方には、同行したり、職員から誘ったりしている。車を利用して全員で出かけ、降りて花を見るなどの外出は、気候の良い季節にはよく行っている。デッキを利用したお茶会で、外気を楽しむ機会もつくっている。	○	歩行での外出が難しくなっている方に対しては、車椅子で付近の散歩にお誘いするなどしているが、時間をみつくて、回数を増やしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お墓参りや、法事などにご家族とでかけられることがある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	希望に応じて年賀状の購入を引き受けたり、手紙を預かって投函したりする援助をしている。	○ 椅子は余分に準備しているので、少人数での来訪の場合は座席近くにスペースをつくることができるが、特別な応接スペースがないので、大人数での来訪の場合には居心地がよくないかもしれない。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる		○ 現在、禁止の対象となるような行為は行われていないが、身体拘束とはなにか、なぜ行ってはならないか、ミーティングなどの機会に認識の確認と共有を図っていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の鍵は、中からしか施錠できないようにしつらえている。玄関の鍵は、日中はかけていない。以前は気分や気配を察知しての連携プレーで対応できていたが、外に出るのが好きで、ひっきりなしに散歩に出かける方に見守りがおいつかなくなり、チャイムをつけて、いつでも職員がついていけるように安全面に配慮した。	○ 暗くなり、職員数が少なくなってからも外に出ようとする方への対応を模索中。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員のうち一人は入居者が集うリビングと同じ空間にいるように、互いに役割分担しているが、戻ってきた職員も、さりげなく、見当たらない方の所在を確認しあうようにしている。夜間は、記録をつけることで様子を確認できている。また、起きられた音が聞こえ、すぐに対応できる位置に居場所がある。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤のストック、薬物、包丁、裁縫道具などは、手の届きにくい場所や、見えにくい場所に置くようにしているが、入居者が自発的に使われる食器洗い用洗剤などは、家庭と同じように、蛇口そばにおいている。異食行為のみられる方については、ちり紙や菓子の包み紙などがそばに置いたままにならないように気をつけている。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハットを記録し、職員の共通認識を図っている。万が一の事故が発生した場合には、速やかに事故報告書を作成し、事故原因の今後の予防対策について検討し、家族への説明と報告を行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に一度、消防署の協力を得て、救急手当や蘇生術の研修を実施し、すべての職員が参加して、習得するようにしている。緊急時の対応については、マニュアルを整備し、繰り返し周知徹底を図っている。	○	最も懸念される職員が1名になる夜勤時の火災避難誘導の訓練を今月予定している。地域の協力体制については、自治会にお願いしているところである。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回入居者とともに避難訓練を行っている。消化器や避難路の確保を定期的に行うとともに、非常用食料、飲料水、トイレ、レインコート、カセットコンロなどの備品も準備している。	○	地域の協力体制については、自治会にお願いしているところである。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについてなるべく率直にご家族に話すようにし、対応策について相談報告するようにこころがけている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は普段の様子を把握しており、食欲や顔色、活気などの変化に気づいたときには、バイタルチェックを行い、記録や申し送りで情報を共有するとともに、看護師や管理者に報告するようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が現在服薬、使用している薬の内容を把握できるようファイルを作成している。	○	処方や用量の変更もわかりやすいファイル形式を検討中。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を使った献立にし、水分を十分に摂ってもらえるよう、声をかけたり、好みの飲み物を用意したりしている。排便リズムに合わせたトイレ誘導などで、自然な排便をめざしているが、下剤などを使用する場合は、量や頻度は一人ひとりに合わせるようにしている。	○	散歩や体操など体を動かす機会をもっとふやしていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	就寝前には、歯磨きや義歯の洗浄を、一人ひとりの状態に合わせて支援している。	○	残渣物が溜まりやすい方に対しては、毎食後の支援を行っているが、歯磨きの習慣のない方や羞恥心の強い方に対しては、充分に行えていない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、一人ひとりの好きなものやいつも残すもの、いつもの食事量を把握しており、食が進まない場合は、補食を工夫したり、体調に気をつけたり、介助したりしている。食事内容は書類に記録している。	○ 定期的に栄養の専門的アドバイスをもらうようにしていきたい。また、個別の残食量を記録に残すように検討している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	起こり得る感染症についてマニュアルを作成し、行政からの通知などの情報は周知徹底させ、流行に随時対応している。また、入居者及びご家族に同意いただき、職員ともにインフルエンザ予防接種を受けている。ノロウイルス対策として、ペーパータオルを使用して予防に努めている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具や食器は毎食後洗浄の後 乾燥機にかけ、まな板の漂白、三角コーナーなど台所水回りの清掃は夜勤者の仕事と決めて実行している。食材は、新鮮で安全なコープ自然派のものを使っている。冷蔵庫や冷凍庫の食材の残りの点検は頻繁に行っている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口にベンチやプランターなどを置き、玄関正面にはいつも入居者に花をいけてもらって、親しみやすい雰囲気になっている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所での音やにおいの生活感が感じられる造りになっている。畳のコーナーは、洗濯物をたたんだりする場所であるとともに、雛飾りやクリスマスツリーを置いて季節を感じてもらえる場所でもある。また、廊下の明り取りの窓が、ひとりの入居者にとっては不安に感じられるというので 塞いでしまうなど、安心できるよう配慮している。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のコーナーに腰掛けておしゃべりしたり、廊下のソファがお気に入りの場所だったりする。ときには 入り口近くの椅子や玄関の腰掛がひとりになれる場所となっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、なるべく使い慣れたものを持ってきてくださるようお願いしている。生活の様子を見て、家具の配置や布団の向きなど、ご本人の好みや習慣や力に合わせて、工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床前と掃除のときは、大きく戸を開けて換気するよう決めている。普段でもトイレと天井の換気扇は回している。空調の吹きだし口と座席の位置との関係を考え、衣類での調節に気をつけている。乾燥する季節には加湿器も使用している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状態に合わせて、廊下やトイレに手すりをつけなおしたり、トイレのふたを取り外したり、物干しの高さを変えたりした。また、その日の状態に合わせて、車椅子やキャスター付き椅子を使用して、活動性を維持することもある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレのふたをしたまま、その上に排便されてしまうことがたびたびあったので、ふたを取り外してみたところ、迷われなくなった。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇に花を植え、畑で野菜を作っているが、室内からも見えるので、活動が皆の楽しみになっている。玄関先や駐車場近くにベンチを置いて、ひと休みしたり日向ぼっこができるようにしている。室内から続いているウッドデッキで、外の風に当たり景色を楽しみながらお茶を飲んだりしている。洗濯物や布団を干す場所にもなっている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
		○	③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

安全で安心できるこだわりの食材を使って、ゆったりした自然の中にあり木の香りのする建物という環境。一人ひとりを大切に向き合うというスタッフを中心に、フラダンス、阿波踊り、お花の手入れ等、定期的に訪れるボランティアに支えられています。